

摂食嚥下機能に遅れや障害のある子どもへの支援



日本歯科大学 教授
日本歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科 科長
日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

田村 文誉

略 歴

1989年 昭和大学歯学部 卒業
1989年 昭和大学歯学部 第三補綴学教室入局
1991年 同 口腔衛生学教室入局
2001年4月・2002年3月
米国アラバマ大学歯学部 補綴学・生体材料学教室留学
2004年 日本歯科大学附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター 講師
2007年 同 准教授
2012年 同 口腔リハビリテーション科 科長
2013年 同 教授

学会活動など

日本障害者歯科学会理事
日本障害者歯科学会指導医・認定医
日本老年歯科医学会指導医・認定医・専門医・摂食機能療
法専門歯科医師
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士
国際筋機能療法学会 (IAOM) 運営委員

著 書

『上手に食べるために1 (共著), 2 (単著)』、
『乳幼児の摂食指導 (共著)』、
『介護予防のための口腔機能向上マニュアル (共著)』、
『高齢者の口腔機能評価 NAVI (共著)』
『Groher & Crary の嚥下障害の臨床マネジメント (共訳)』
『マタニティ 歯科外来 (監修)』
『口から診える症候群・病気 (共著)』
『小児の摂食嚥下リハビリテーション第2版 (共著)』ほか

摂食嚥下機能は、わたしたちが日々食べ物を食べ、栄養を摂取していくための重要な機能です。ひとの栄養摂取方法には2通りあり、ひとつは赤ちゃんが乳汁を摂取する「哺乳機能」、そしてもうひとつが固形食を食べて飲み込む「摂食機能」です。哺乳機能は主に原始反射である哺乳反射の動きによって行われますが、摂食機能は随意運動であり、生まれてくれば誰でもこの機能を獲得できるわけではありません。発達に遅れや障害のある子どもでは、この食べること＝摂食嚥下機能、がうまく育たないこともあるのです。

摂食嚥下障害は、乳児から高齢者まですべての年代において起こり得る障害ですが、ライフステージや原疾患によって問題点や方針の立て方、訓練法など、その対応には違いがみられます。乳児期から学童期の大きな特徴は、機能が未熟（未獲得）である、そして発達期にある、ということです。つまり、リハビリテーションによって機能を再獲得させることはできず、未獲得な状態から獲得させていくこと、そして成長の道筋に載せていくこと、といった、発達療法の考え方が重要になります。

子どもの摂食嚥下障害の原疾患はさまざまで、中枢神経系の疾患や染色体異常、神経筋疾患などのお子さんに摂食嚥下障害がみられることが多くあります。さらには発達期障害の患者さんにおいても、成長とともに加齢の影響を被ることに対処していく必要があります。最近では高齢者介護施設などにも、脳性麻痺や知的障害の方の入所が増えている現状にあります。したがってより多くの人が、発達期障害の人の加齢による摂食嚥下障害に対応できるようになっておく必要があります。

摂食嚥下障害の症状には、哺乳力が弱い、重度の誤嚥がある、むせる、口に溜めこむ、食べる意欲が乏しい、偏食がある、咀嚼が下手、などさまざまなものがあります。また、嚥下機能に問題はないと思われるのに口から食べようとしない「経管依存症」や、食事恐怖症、反芻など、心理的要因によるケースも報告されています。そのような子どもでは、味覚や触覚に異常を呈する場合があります、機能の問題だけでは解決できません。

摂食指導を含め、子どもたちへの食支援を行うにあたっては、その子どもが定型的な発達過程のどこにいるのか、あるいはどの程度どのように道筋を外れてしまっているかを評価し、定型的な発達過程にできる限り戻していくことが大切です。そのためには、我々支援者側が、摂食機能の定型的な発達過程を正しく理解しておく必要があります。そのうえで、必要な訓練指導を行い、機能の発達、維持向上を目指していきます。実際の摂食嚥下リハビリテーション（以下、摂食指導）では、日常生活にできるだけ近い環境を設定し、摂食嚥下機能の評価を行います。そのうえで、家庭でできる訓練法や食事の調整、姿勢調整などを指導します。当然歯科単独で対応できるケースは限られており、医科の主治医や教育、保育の場との連携が重要です。また、保護者の思いや家庭環境が子どもたちの食べる行為に関連していることも多く、親子関係を含めた保護者への配慮が求められます。摂食指導は、いわゆる「機能訓練」だけではありません。むしろ、生活支援の一部であると考えべきでしょう。摂食指導では、指導の成果を急いで子ども本人や保護者を追い込むことのないよう、子どもにとっては「食べること」が、保護者にとっては「子育て」が楽しくなるような支援を心掛けていきたいと考えています。